



# ろくべん館だより

こんにちは。ろくべん館の管理人の森上です。今年は1月に入り何回か降雪を経験しました。大鹿村の冬は凍み(しみ)が厳しく路面が凍結しますので、人が歩く時、車の運転時には十分に注意が必要です。

さて、ろくべん館の改修はかなり進んで間もなく外装や内装については完成が近づいてきました。今後は、装備品、展示品の整備が進んでいきます。

さて、今回はろくべん館の旧玄関があった場所に新たに展示される「白籟史朗写真展示コーナー」(仮称)についてお話ししたいと思います。

白籟史朗先生(以降先生と記述します)は昭和8年に山梨県に生まれ、二十歳前から山岳写真家の岡田紅陽氏に師事し写真家の腕を磨かれて25歳で独立されました。その4年後に山岳写真家として独立宣言をされました。長きにわたり活躍され、多くの役職やいろいろな賞を受賞されました。

私は平成19年にフォトコンテストの審査委員長として大鹿村に来られた先生の講演会で山岳写真家の大変さを聞いたことがあります。良い写真を撮るためには普通の努力をしてもダメで寝る時間も惜しむくらいにシャッターチャンスを狙って待っていることが大事だと話されていたことが思い出されます。また、講演会の中で冬山の撮影中に生死にかかわるような体験をされたことも話されていたと記憶しています。



先生は、日本各地の山をはじめ、世界中の著名な山々を回って四季折々の山岳写真を撮られてきました。大鹿村にも南アルプス登山口として何回も訪れていただいたことと思います。先述のとおり大鹿村が「日本で最も美しい村連合」に加盟してフォトコンテストを始めた時に縁あって先生に依頼し審査委員長の高責を担っていただきました。十数年にわたり第1回から第7回まで遠い大鹿村の地まで足を運んでいただいてこのイベントに花を添えていただいたことは村にとってとても幸せなことだと感じます。

先生は令和元年11月にご逝去されましたが大鹿村にたくさんの作品を寄贈いただいております。この度、民俗資料館「ろくべん館」の改修に当たり、多くの来館者の方にその作品をご覧いただけるよう展示スペースを設けます。ご来館の折にはぜひご覧になってください。

また、前回お知らせいたしました、新たに増設される玄関棟には先生に審査していただいた「日本で最も美しい村フォトコンテスト」の入選作品も展示されます。併せてご覧ください。